



滑川の

会 期 / 平成29年 11月11日(土)～12月24日(日)

※休館日 / 毎週月曜日及び祝日の翌日

会 場 / 滑川市立博物館 第2常設展示室

製鉄遺跡

開館時間 / 午前10時～午後6時 (入場は5時30分まで)

観覧無料

講演会 / 平成29年11月19日(日)午後2時

「古代の鉄づくり」

関 清氏 (元富山県埋蔵文化財センター所長)

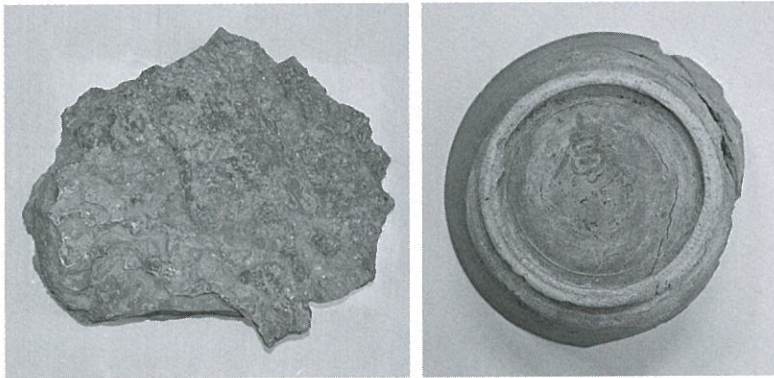
主 催 / 滑川市教育委員会、滑川市立博物館

上の写真: 安田下水遺跡製鉄遺構 / 下の写真: 東金屋たたら製鉄遺跡





安田下水遺跡出土鞆羽口

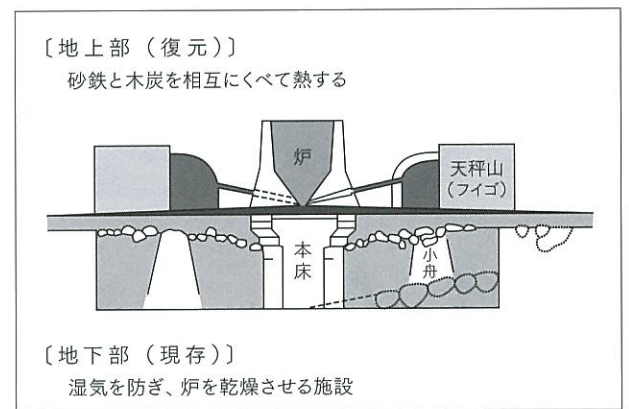


鉄滓

墨書土器

私たちの生活のあらゆる場面で利用され、なくてはならない鉄製品。歴史上、日本において、「鉄」は古墳時代以降に生産されるようになりました。日本全国に生産技術が広まっていく中で、滑川においても安田下水遺跡で、古代の一時期に、送風装置である鞆^{やすだしもみず}を備えた炉^{ふいご}を用いる鉄生産が行われました。この遺跡からは製鉄炉の地下構造を示す石組遺構のほか、鞆の羽口（土製の送風管）や大きな鉄滓（製錬の際に出る不純物の塊）が出土しています。近世にも、山陰地方から技術を導入して本格的な「たたら製鉄」が行われたことが史料から判明していましたが、東金屋においてその遺跡が発見されました。発掘調査の結果、製鉄炉の地下構造が残っており、史料を裏付ける貴重な遺構であることがわかりました。滑川においてこのように鉄生産が行われるのは、原料となる富山湾岸の豊富な浜砂鉄と運搬手段、地盤等の立地条件、鉄づくりに必要な木炭を得るための山林資源の存在という諸条件が揃っていたためと考えられます。

本展示では、このような滑川の鉄生産がどのようなものであったかについて、遺跡調査成果を中心に紹介するものです。



たたら製鉄炉模式図

主な展示内容

- 安田下水遺跡の概要と古代の鉄づくり
- 県内の古代遺跡出土鉄製品展示
- 東金屋たたら製鉄遺跡の概要と近世のたたら製鉄
- 史料からみる滑川のたたら製鉄
- 近世以降の鉄製品展示

イベント等

講演会 平成29年11月19日(日)午後2時
「古代の鉄づくり」 関 清 氏 (元富山県埋蔵文化財センター所長)

たたら製鉄復元ビデオ

砂鉄採取体験コーナー

江戸時代の砂鉄採取法と砂鉄遊び等体験会

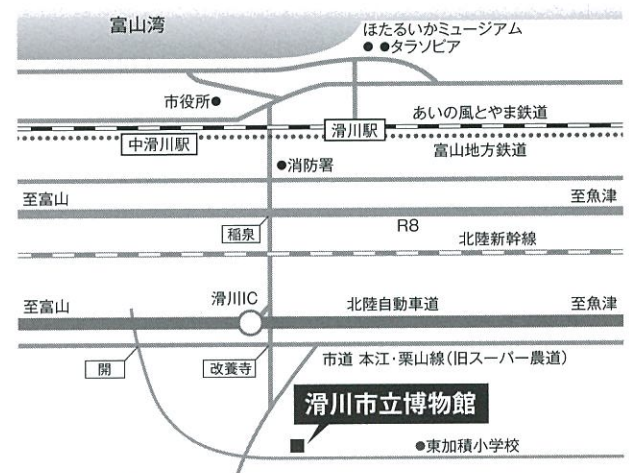
平成29年11月23日(木・祝)・12月2日(土) 10～12時
対象：小学生 **要申込**

入場料・休館日等

入場料 無料

開館時間 午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)

休館日 毎週月曜日及び祝日の翌日



●公共交通機関

あいの風とやま鉄道(滑川駅)・富山地方鉄道(滑川駅・中滑川駅)からコミュニティバス(のるmy car)(大日・室山ルート)で20～25分、「博物館前」下車すぐ

●自動車

北陸自動車道・滑川インターチェンジから約2分。国道8号線・稲泉交差点から約7分